

# 国土交通省直轄事業の建設生産システムにおける発注者責任に関する懇談会 品質確保専門部会（第5回）

## 議事概要

1. 日 時：平成20年11月14日（金）10:00～12:00
2. 場 所：九段第3合同庁舎 11F 共用会議室1-1、1-2
3. 出席者：福田昌史部会長、大森文彦委員、小澤一雅委員、河野広隆委員、  
木戸健介委員、田崎忠行委員、常田賢一委員、  
田村真一課長補佐（福田由貴委員代理）、前川秀和委員、小林亘委員、  
永島潮委員、小林靖委員、吉田正委員、松原裕委員、森望委員、  
横山晴生委員  
欠席者：古阪秀三委員、越知繁雄委員、村山一弥委員

### 4. 議事概要

〔発注者支援型CM方式について〕

- 災害復旧事業や施工経験のない技術を要する事業以外の一般的な事業においても、CM方式を活用してより品質を確保できる体制に組み直すべきである。
- 発注者とCMRとの役割分担を明確にする必要がある。
- 「専門技術力の活用」について、施工が始まってから設計にフィードバックするなどCMRの関わる範囲が広くても良いのではないか。
- 「地元住民対応」については、交渉・調整は発注者（国・地方公共団体）が直接行わなければならない。CMRに伝令以上のことを担わせると発注者は弁護士法違反となる可能性がある。権限の検討については留意して欲しい。
- 「関係機関との協議」について、権限の拡大は効果を検証してから決めるべきである。
- 現在の直轄事業のやり方が今後も継続できるのかどうか、品質確保という観点で想定される問題はないのか。国土交通省として、品質確保に向けたビジョンを明確に持つておくことが大事である。CM方式、設計・施工一括方式等はその解決策のひとつである。
- 現場技術が空洞化しているというイメージが出てきている。現場技術の空洞化を是として、違う手段を入れるのか、体制を立て直すのかを踏まえて議論する必要がある。
- まず、大規模工事でCM方式を導入し、役割分担しやすいものから試行し、ツールを整備することが現場にとってわかりやすいと思う。
- CM方式は発注者側の問題意識の解決には有効だと考えている。基本的にはCM方式を拡大していく方向と思う。その場合、現場に対しては、本省や局の指導が必要であることと、現場の技術職員の技術力の低下に対する懸念がある。
- CMRを発注者の立場とするのであれば、責任は発注者であり、損害賠償、ペナルティをCMRに課すことできないのではないか。法的に問題だとすれば、CMRを発注

者の立場としてきちんと位置づける工夫が必要ではないか。

- 従前の制度や仕組みが変わることへの不安が現場にあるのではないか。議論を進めながら現場の不安を取り除いていくことも必要である。
- 全体を指揮するのはやはりインハウスエンジニアであろう。物事が複雑になってきており、CM方式においても発注者がこれから何をどのようにやっていくかという青写真を描くことが必要だと思う。
- CM方式は一つの有力な制度であり、現場から理解が得られる工事から試行導入してゆき、試行工事を増やしてインハウスエンジニアの意見を吸い上げていきたい。
- 判断、意思決定は極めて重要なことであり、それに対して、意見や助言をするのがCMRとして重要であり、これを別途役割として整理する必要があるのではないか。

[設計・施工一括発注方式等について]

- 設計・施工一括発注方式であれば乙が責任を負うとしているが、その責任は設計及び施工の範囲に限る。過失責任に関する整理がないが、法的な責任の整理が必要である。
- 設計・施工一括発注方式では、発注者は一般図だけでなく、各種の条件を確定しなくてはならない。設計及び施工時点でのチェックも必要である。
- 事例ではリスク分担の課題はあるが、設計・施工一括発注方式の効果はあると理解している。
- 本格運用ではどのような事業に設計・施工一括発注方式が適用されていくのか。リスク分担以外に課題はないか。高度技術提案型総合評価方式により、従前より積算の手間は少なくなったと思うが、さらに改善はできないか。
- 平成13年3月の報告書に記載されているリスク分担の考え方では、負担のやりとりがあるようで、責任の所在が曖昧である。リスク分担ではなく、リスク責任といったようにして責任を明確にすることが必要である。
- 設計・施工一括発注方式が適している工事や発注ロット等もあるのではないか。これらを対象とすることで、リスク分担も検討し易いのではないか。

[電気通信施設WGについて]

- 1社入札はなくなっていないようである。改善策の検討結果について次回報告をお願いしたい。

[今後の予定について]

- 設計・施工一括発注方式等については実施マニュアルを、発注者支援型CM方式は導入促進のため何らかの形で、とりまとめをさせていただきたい。

以 上